

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立つ。

## 2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値48.6以上にする。

## 3. 指標にむけての取組

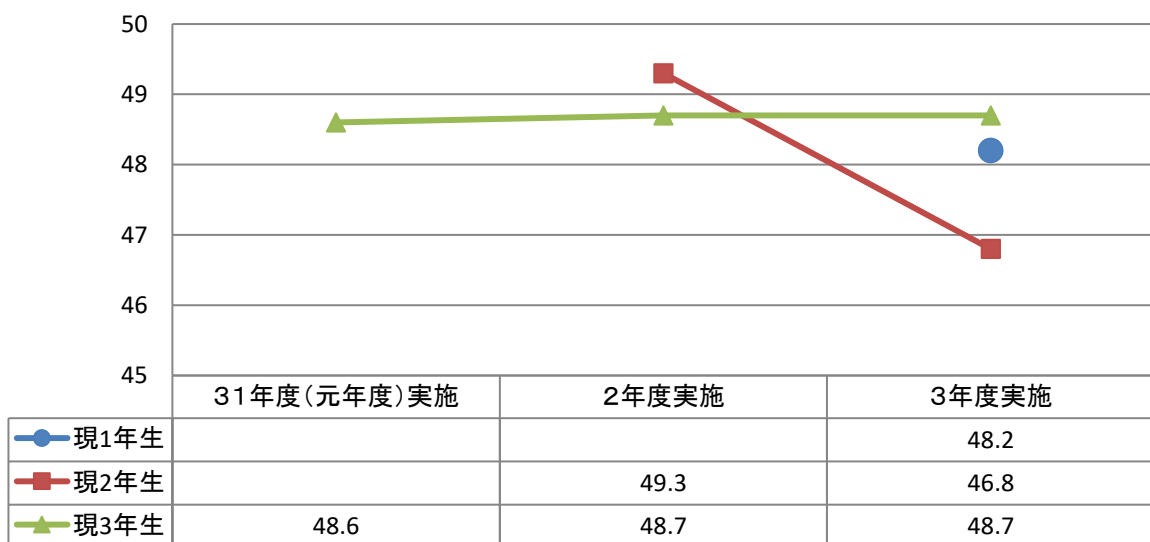
- 一単位時間の授業スタイル(「めあて」「見通し」「思考活動」「まとめ」「振り返り」)の定着を図るための校内研修や公開授業の実施
- 授業アンケートや考査・フクトの問題や結果の分析を通しての授業改善
- 保護者と連携した家庭学習の充実

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度
本校(A)	48.8	48.2	46.6	48.6	47.9
嘉麻市(B)	47.9	49.3	48.8	48.6	47.1
(A) - (B)	0.9	-1.1	-2.2	0	0.8
標準偏差値との差 (A) - (50)	-1.2	-1.8	-3.4	-1.4	-2.1

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 授業の指導過程においての「めあて」「見通し」「まとめ」を位置づけた授業の流れの定着が図れてきたが、かく活動をともなった「思考活動」の充実や次時につなぐ「振り返り」の活動の定着が不十分である。
- 授業アンケートを通して、授業改善や生徒の課題を分析したが、その後授業改善ができたかどうかを確認し、指導助言を行う機会が少なかった。
- テスト計画表を用いて、家庭と協力して考査前の家庭学習の時間の確保や内容の充実を図ってきたが、すべての家庭に浸透していない。

## 6. 各学校における今後の取組

- 校内研修や一人一実践授業(指導案を伴う授業)等を通して、授業のグランドデザインをもとにした授業改善を計画的に行っていく。
- 授業アンケートや生徒の課題を分析し、組織的に授業改善をし、その結果を生かしているかを確認していく。
- 家庭と連携した考査前のテスト計画表をもとにした取組と共に、小学校と共通実践する「ノーメディアチャレンジ週間」を位置づけ、取組を推進していく。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」・「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。